

門 二六二
番 669
巻 一三

柏



勅老御伽雙紙序



今田文庫

其の書とほれくれと後



傳へ一算問或とをりうかひ

捷徑の術秘をのるゝ書とあり

一が時ありて去人の愁らまあり

今梓よちりばめて勅老御伽双紙と

卯水又式一

号しつちん子の子のまを拵びし
ん人け書よりとけいあぶあ
阿記より流るるいしりぎし
時寛保三年亥の二日

洛陽中根保く悉法軸自序



勅老御伽雙紙上目録

- 一 小町算乃事 ニケ條
- 二 人の年数を基ふて二夜かごとせて知る事
- 三 人の生年の十二支を知る事
- 四 同十干を知る事
- 五 年にく人の十二支とある事
- 六 同十干を知る事
- 七 人の生年の十二支を知る事

八 十子たりし事の事

九 さりさ立たての事

十 同つと三とにりる事

十一 同二と三とにりる事

十二 継つぎりけと云い事ことの事こと又また語ことば立たとり

十三 薬くすり師しざらんの事こと

十四 同三角ふちちりる事こと

十五 同五角ふちちりる事こと

十六 布ぬの盗ぬす人ひと強つよ知ちる事 三ヶ條

十七 御ご算さんといふ事こと

十八 裁さ合あ物ものの事こと 十ヶ條

十九 百ひゃく又また減げんといふ事こと

二十 又また三さん百ひゃく又また減げんの事こと

廿一 又また六む十じゅう三さん減げんの事こと

廿二 賞しょう物ぶつ後ご救きう不ふとりる事

廿三 奇き偶ぐの事こと

即此又文



卯又後

たす

たす

勅老清伽雙又紙工目録終

十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十

廿四 奇妙希代の事

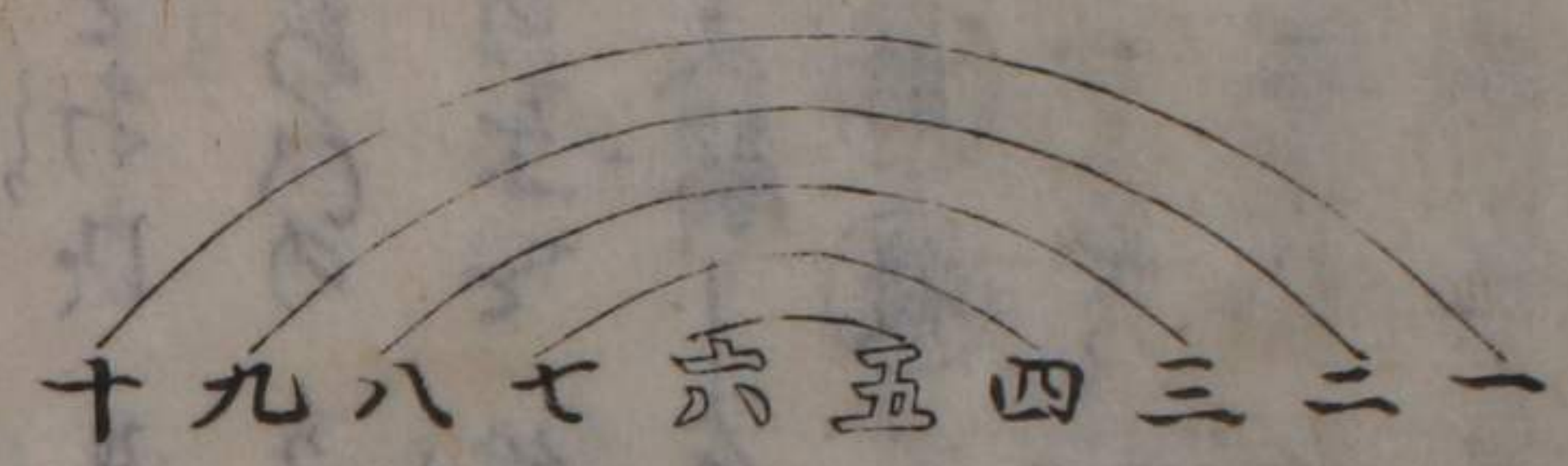
廿五 龜乃々々々の事

海物又紙

短志やふ	くらほらねる	きくはや	屋敷のことよ
うらまげと	何ぞおとらぬ	とらふ人乃	縁めよあうぬ
せんごいや	霧と氣と忠	うらけけ	まづどうあげて
とうぐふ	酒とあめく	とらふもふ	なすそぬ中の
たのここと	きくはらねる	はぎめさて	み十をうらふ
ちここのめ	てしたづえ	おけけ	さいひあいと
たのこは	きくはらねる	めがら	下女ころろ
あづさゆ	ひくおあまの	たもあま	いとらうげふ
くらきぶ	げふ業卒志	極どげん	ころこのころ
ひさうて	げぢめをけ	とくとせふ	いとせうらぬ

江浦髪	まれころし	おもげと	いせとひだ
人こも	移人一むびつ	同音一	極きいざしてぞ
わらひげ	中よひらうい	それい	九十九あそく
あひあ	あつよひらうの	婦人あり	幸徳小町志
そ中一	一夜二夜	三夜四夜	又六いあうで
七夜八夜	九夜十夜	うらひけ	さそそわくふ
うさとけ	九十九夜よは	いづと	さうとやうん
そとね	さうほり	ありなれ	うえの人志
あついで	さいほらうり	このころ	ころろけいさあ
今ぞま	吾輩の人志	中りく	とらぶところ

又いさく算乃まらくもるをい



一の十〇九十八〇八三二十四〇七二十八〇五三十
 六合て百十ありけ内五と六とるを教と
 してひたるゆへ合て十一残されぬ餘即九十
 九となるあり

二 人の年数を基ぶして二をわづらへてある事

先初りる数十一先の人よ後して年の数種らうく
 かぞへさせてさうらるるといふ法は又九つ減してさうく
 うさそてさうらるるといふ法は又九つ減してさうく

法曰十一の時のあまり二つを又十四の算用ひて三百
 七十八とま又九つの時のあまり二つを又十四の算用ひ
 して百七十六とま二口合又百又十四と成是を九十九はく
 ひらるるれと引きてさうらるるといふ法は又九つ減して
 二つ入いく交とりびしてさうらるるといふ法は又九つ減して
 いはさひて二方ありありといひ算りある方をかり
 用ひてあつ法のぶとくして答ある也又又方たよ餘

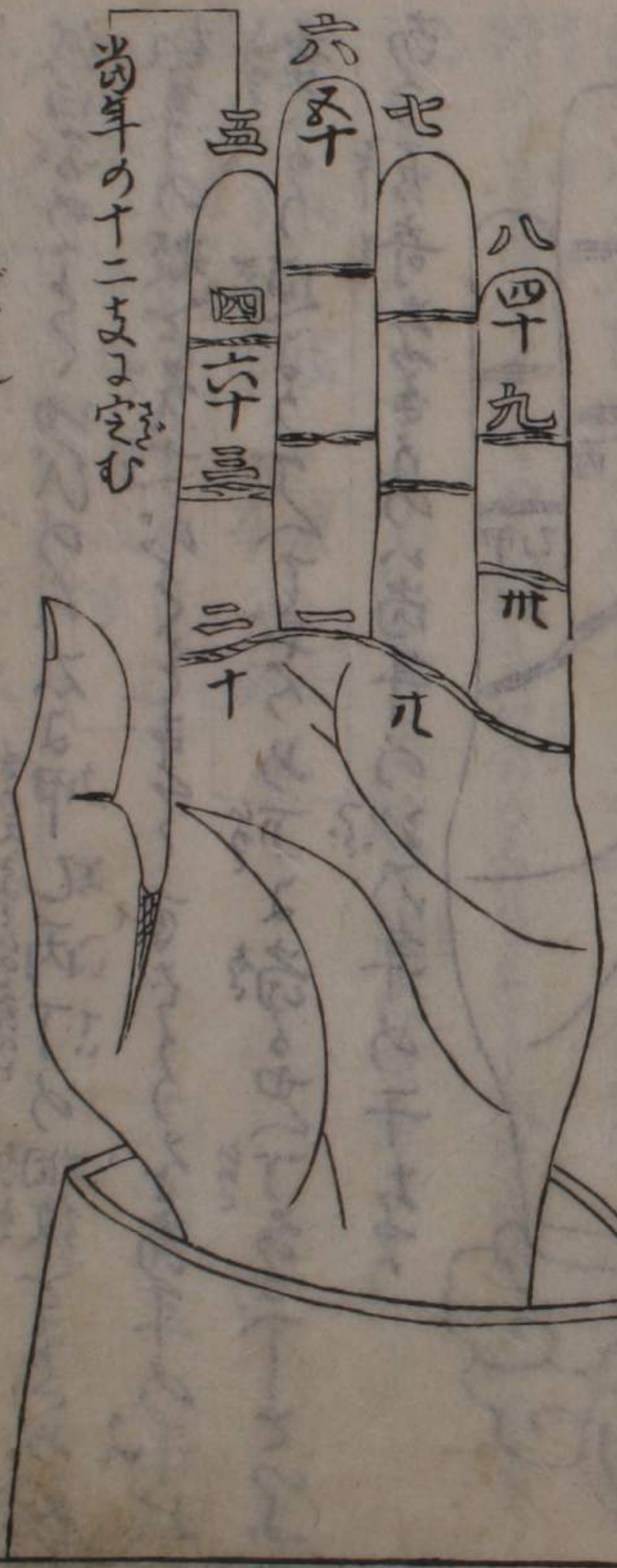
當年癸卯とありあつた癸卯卯丙訂成己とさる月は
あつて己亥年あるとありとあり

五 手にてく人の十二支をさる事

たとへば當年亥の子まで二十九歳はあり人生年の十
二支を問

法曰法のまとい人指ゆひのりとの筋を十と定め筋
一つは茶うままうりよ十れとかぞくたひをねり
通よ一二三四五六七八九とかぞくまわする筋をわ
人さゆひのかしらと當年の亥と定めそれより順に亥
子丑寅卯辰巳午未とくる時亥のあつた未とさるあり

又亥のつらふより逆よ亥子丑寅卯辰巳午未と人
指ゆひのしらにあらを取と甲子十またらうとあり
人指ゆひのかしらとと定めむるあり



六 同十十をさる事

たとへば當年癸の年よて廿七也よ成人生年の十干と向
 法曰癸のこくゆびのたはよ卯記丙訂の相致とささめを
 極年の教と幾十はくともまてくまをうを當年の十は
 癸より通ようがてささめ丁よ當年也丁あるべとさ
 あり奇なきりのい當年の次乃年の干あり



七 人の生年乃又所とさるる

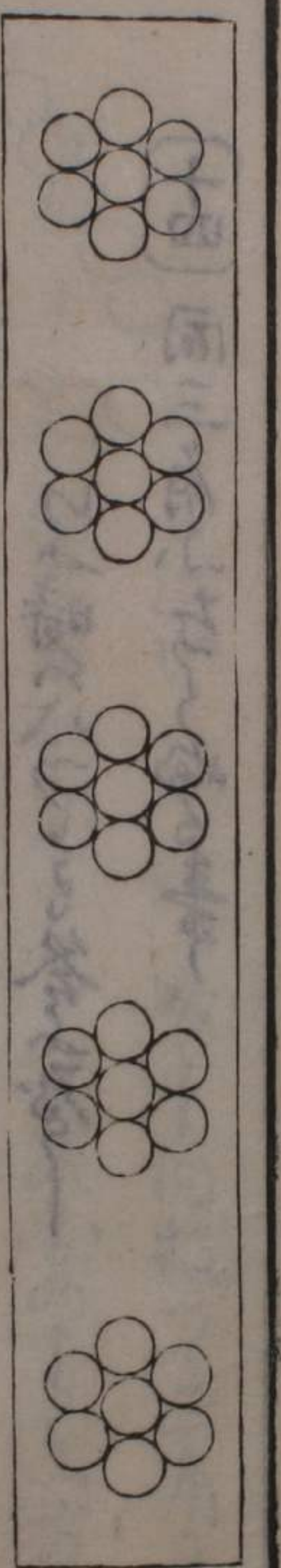
たとへば甲子の年よ生るる人の何性をとさふ
 答曰金性

法曰左の指取て甲の一と子の一と合せて二を得るを
 終の指よ合せて金性とさるるありと合せてるるあり
 又さ時をみとすてくわする教を用ゆるあり

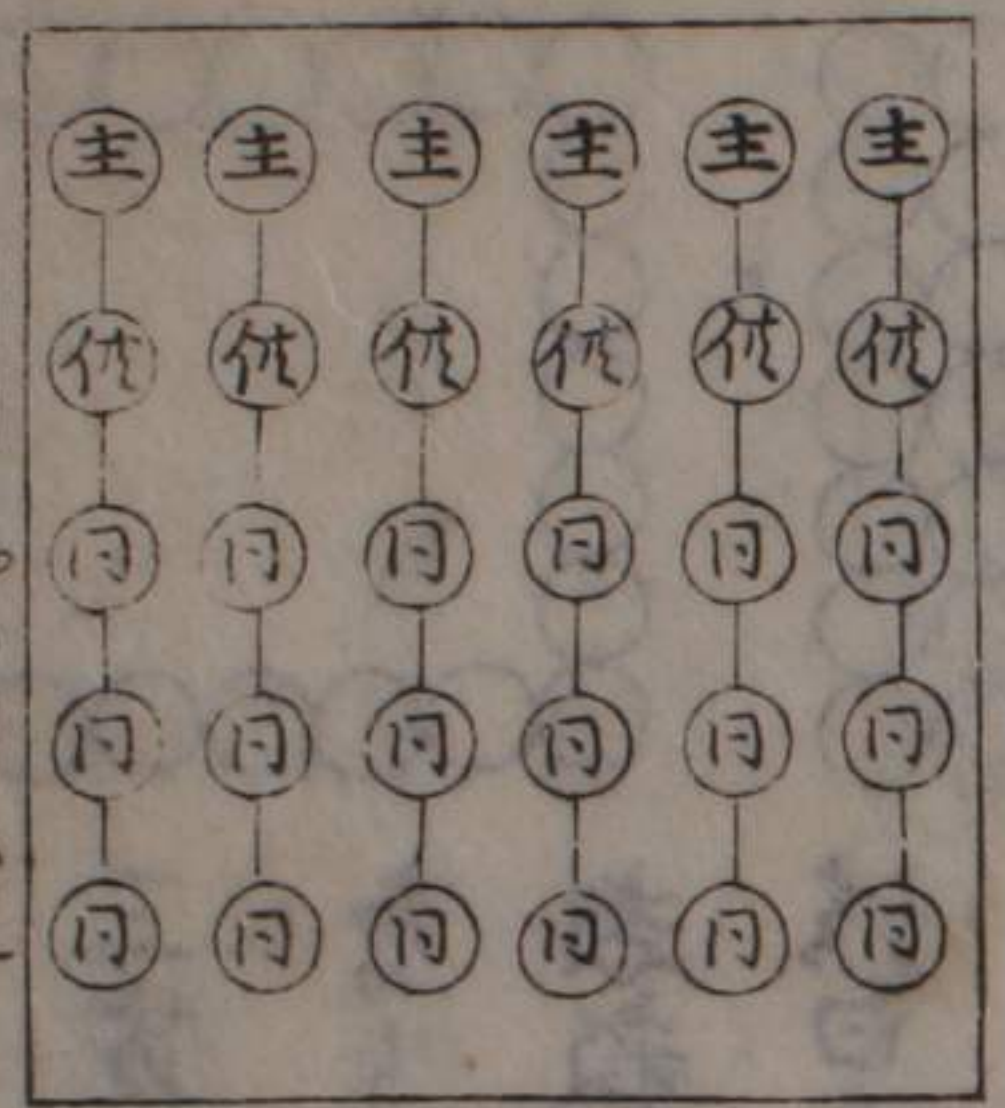
甲一	丙二	戊三	庚四	壬五
乙一	丁二	己三	辛四	癸五
子一	寅二	辰三	巳三	
午一	申二	戌三	亥三	

終の指 一本 二金 三水 四火 五土

一人下人組（いさ）を結（むす）る人（ひと）は下人組（いさ）を供（たす）ふ付（つ）きするあり
 或（ある）は狭（せま）お拵（こしら）或（ある）は履（はき）又（また）は（か）黨（たう）なう（う）て（い）て一人一人は
 四人（よ）つ付（つ）きありけ人（ひと）といふ（い）も（も）ど（も）め又組（いさ）とい（い）は必（かな）供（たす）人（ひと）は
 六組（む）とい（い）は必（かな）供（たす）人（ひと）は（か）り（り）畢（ひ）竟（じやう）組（む）救（きう）よ（よ）つ（つ）き（き）る（る）
 付（つ）き（き）て付（つ）仕（ま）舞（ま）の（の）時（とき）を結（むす）る人（ひと）乃（すな）救（きう）必（かな）初（はつ）の組（む）救（きう）の
 と（と）なり又組（いさ）とい（い）は又人六組（む）とい（い）は六人（む）あり（る）ものあり
 今（いま）もどめ又組（いさ）あり（る）一人（ひと）の長（ちやう）使（し）より一人（ひと）を大坂（おほ）へ
 賞（あ）物（ぶつ）よ（よ）ち一人（ひと）の愛（あい）忠（しゆ）へ代（だい）系（けい）う（う）を結（むす）る二人（ふた）の敵（たか）者（しや）な（な）ど
 い（い）ち（ち）に（に）して組（む）救（きう）の却（か）合（が）よ（よ）あ（あ）粘（ね）よ（よ）云（い）ふ（ふ）た（た）と（と）は
 七（しち）つ（つ）き又組（いさ）の一人（ひと）組（む）せ（せ）う（う）あり

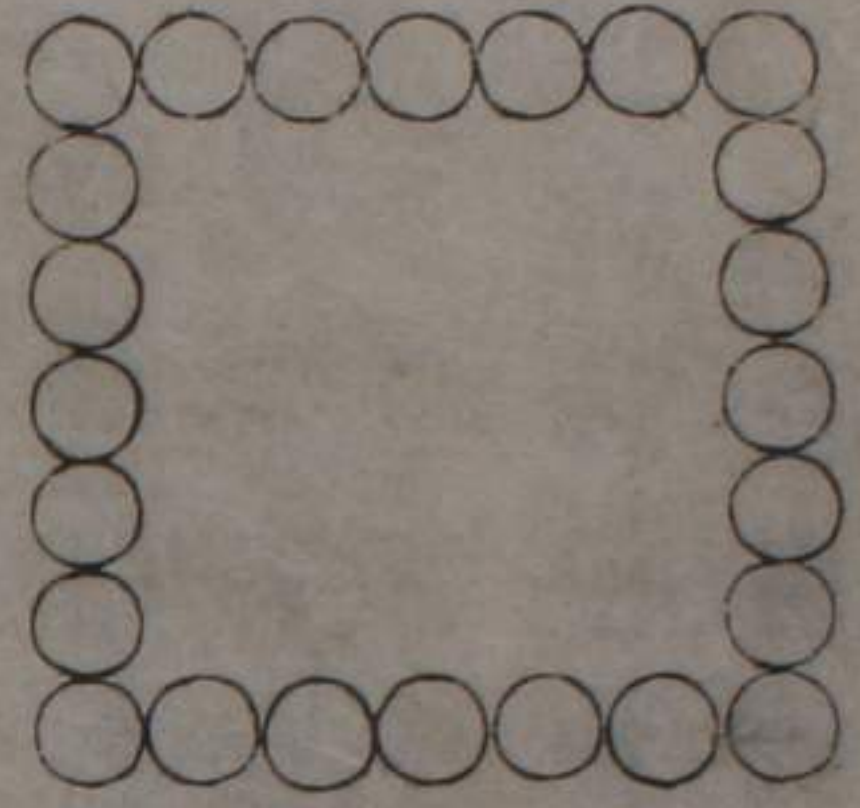


いさ人の内（うち）より一人下人（いさ）よ（よ）して結（むす）る六人（む）を一人（ひと）とさ（さ）どめい
 六（む）つ（つ）を（を）結（むす）るあ（あ）ら（ら）べて供（たす）人（ひと）は付（つ）れ（れ）が（が）あ（あ）と（と）に下人組（いさ）又人組（いさ）
 ありたの雲（う）の（の）木（き）と（と）

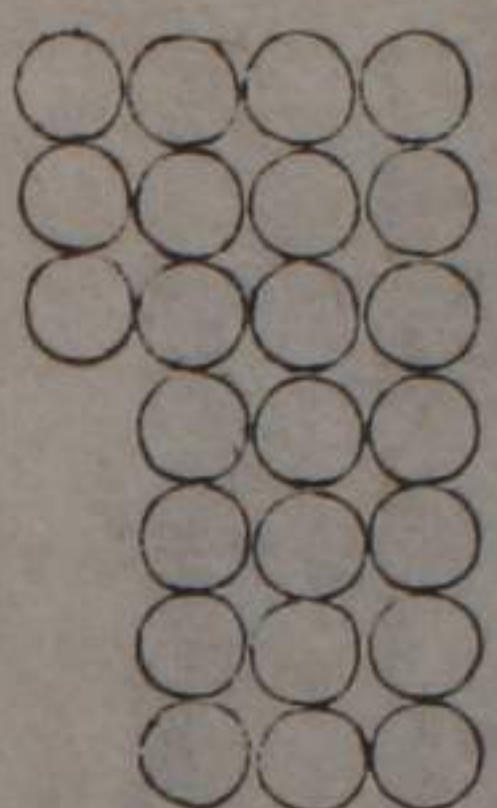


結（む）り又人（ひと） ○ ○ ○ ○ ○ ○
 又同（また）く四組（よ）の一人（ひと）二組（ふ）の一人（ひと）の時（とき）三人（さん）の内（うち）
 二人（ふた）を下人（いさ）よ（よ）して供（たす）を四人（よ）つ付（つ）仕（ま）の結（む）十人（じゆ）を
 三人（さん）を下人（いさ）よ（よ）して結（むす）る又人（ひと）を結（むす）る（る）とさ（さ）どめ

十三 薬師（やくし）集（しゆ）事（こと）

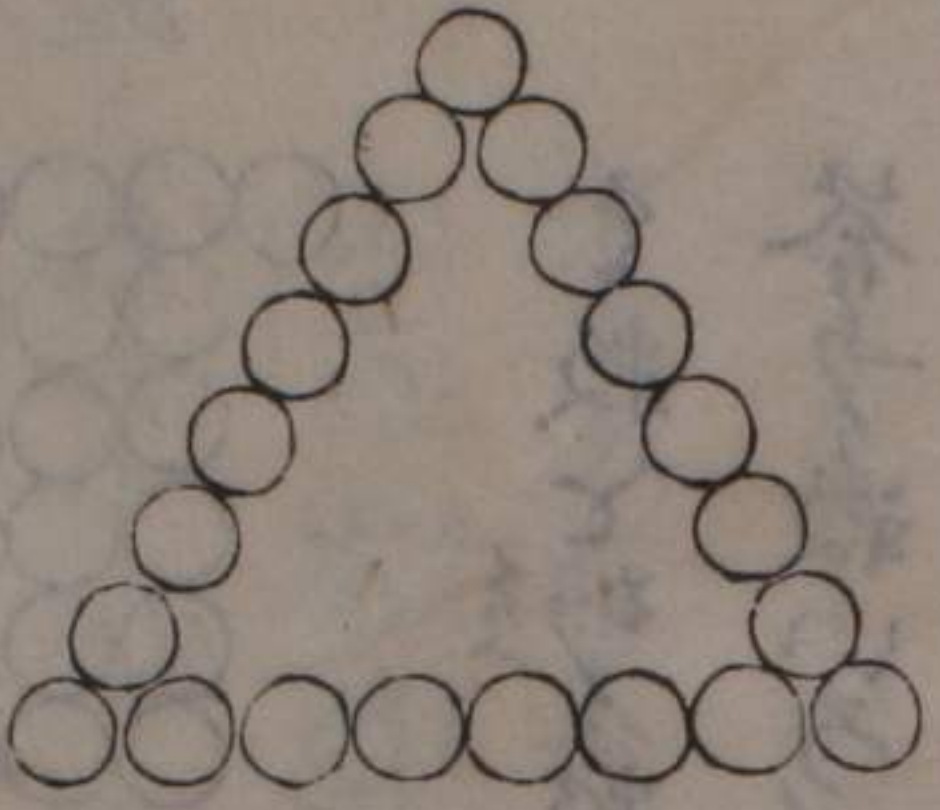


めいいくの法は、珠も四角にありて、
三方をくぐりて、又その方のこと、一方よりくぐ
りて、ある時、け敷き、そのこと、三方あり、ある
敷敷二十四と答あり也



法曰く、このことを四角の算用、して十二を
敷き、定法十二を加へて二十四と答あり、あり
又、また、と云、時の十二、四角と答あり、塵劫
記、百二十といふ、あやまり也、又、また、十二と
いふ、時の八つとも答あり

十四 同三角、小なる、ぬる事



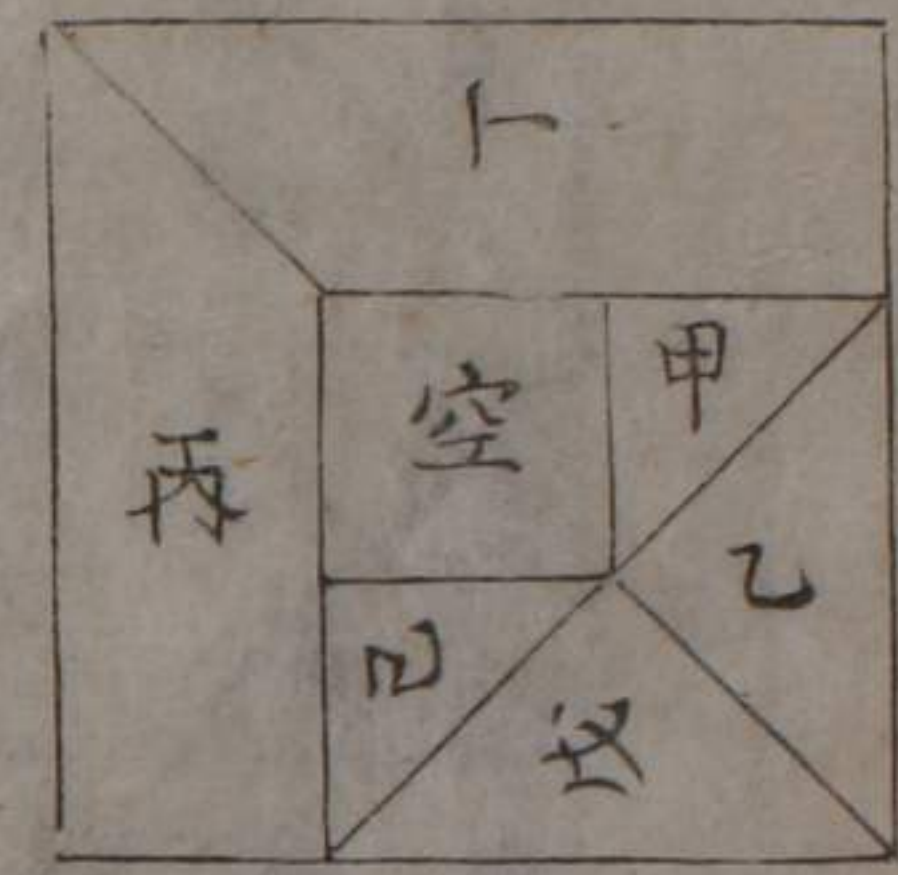
めいいくの法は、珠も同敷、三角あり、
ぬる、三方をくぐりて、又、また、の、
た、た、た、時、け敷き、そのこと、
敷敷二十一と答あり



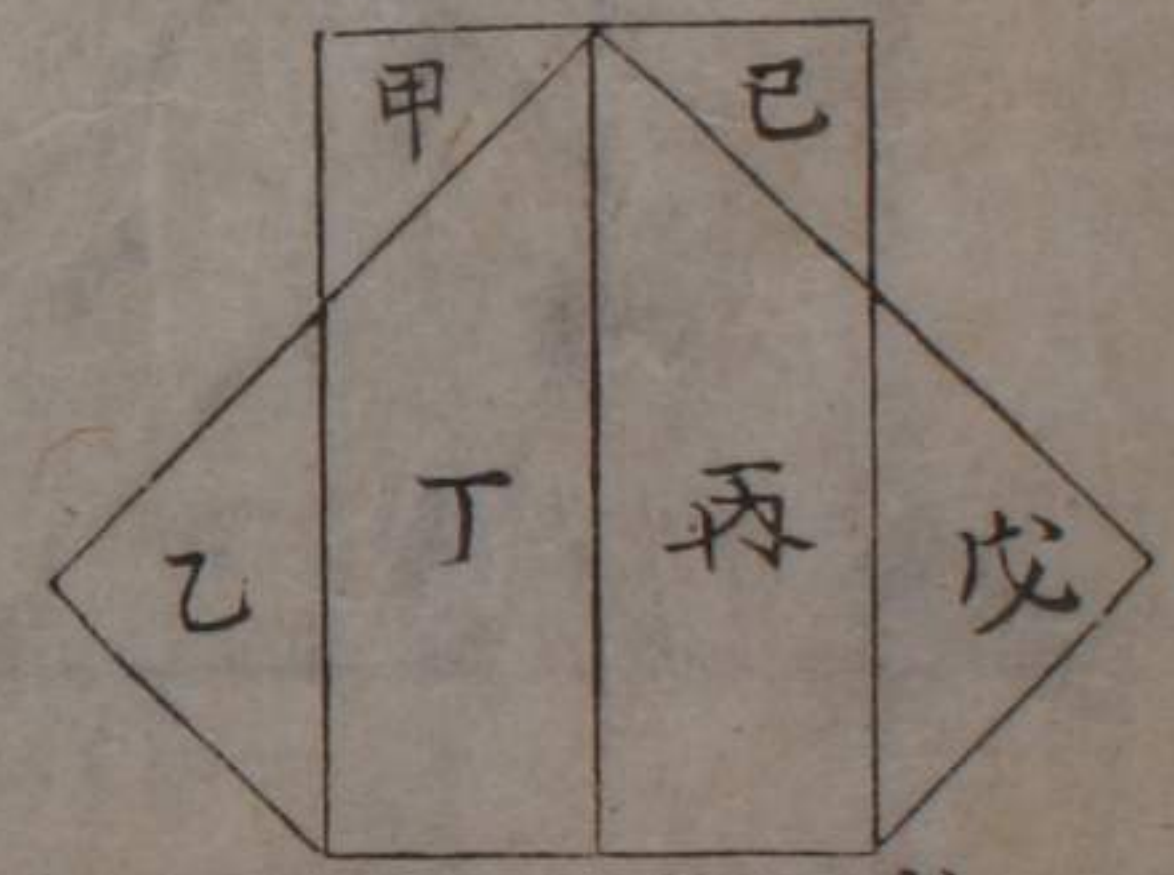
法曰く、このことを三角の算用、
十とある、是、不定法、六つを加へて二十一と云也
又、また、と云、時の六つと云、
六十といふを得、た、た、又、
時の三つとも云、

十五 同五角、ある、ぬる事

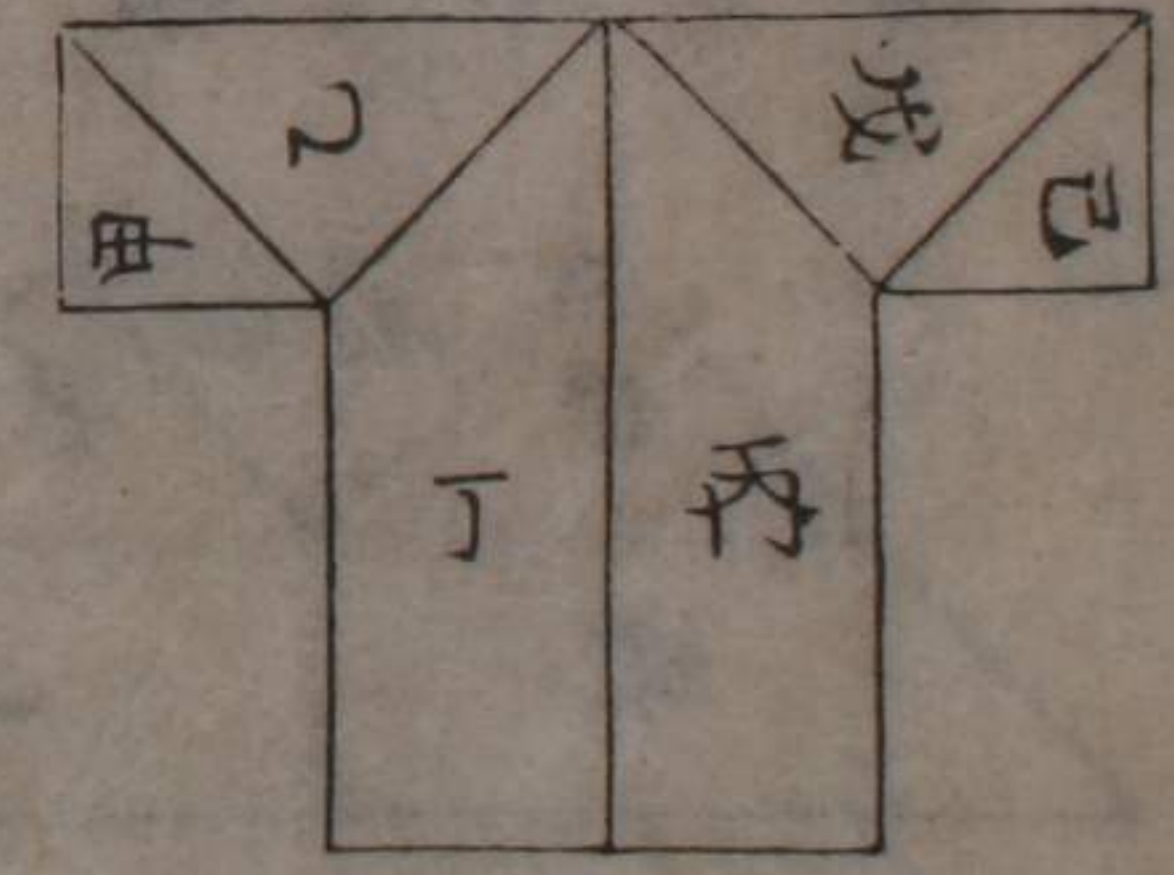
よのきぬぞく



よのき切



よの形離



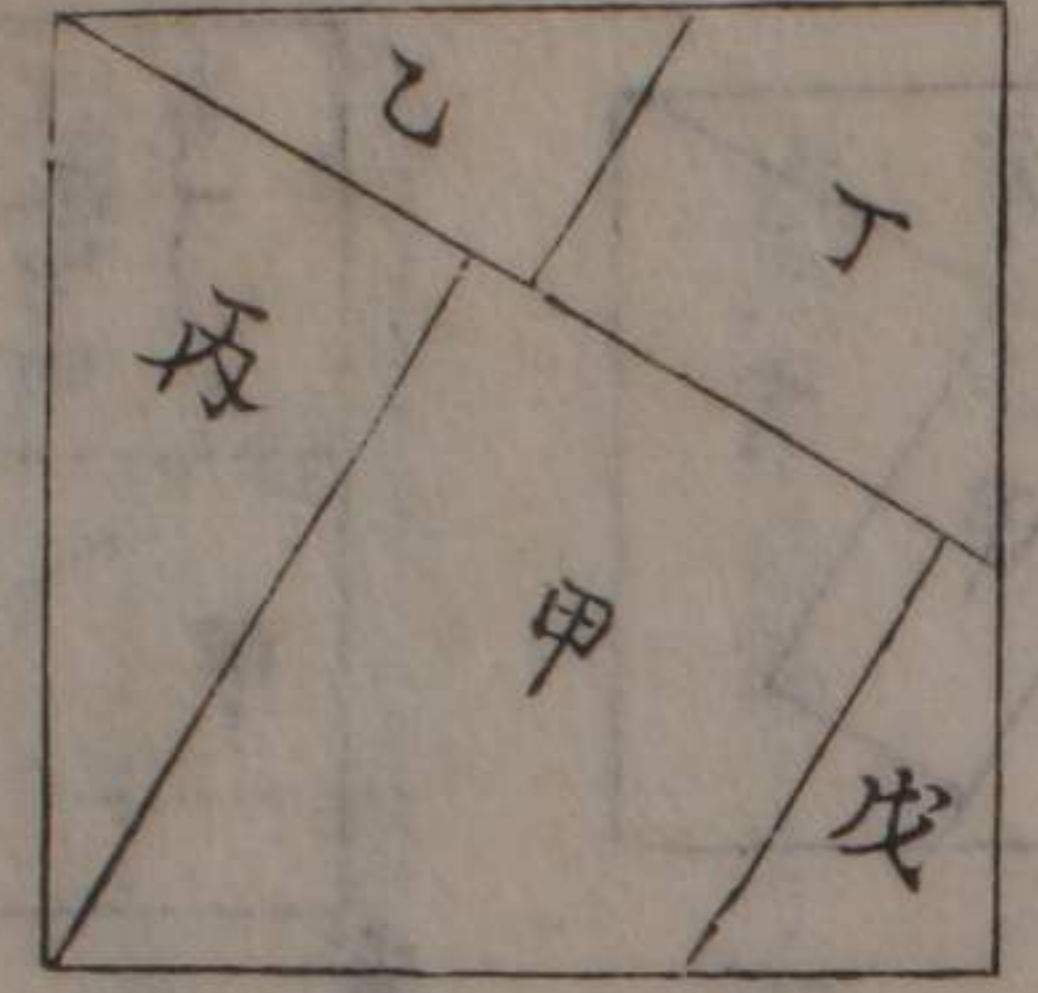
たとへば横三増倍を縦よまらる紙と西方に有とすたらやれ奉



寸とあててそ筋ありよよの方へとたの方へと曲尺よ合せて

法曰先其中の筋より横よ二つよ切てそつを又縦よ二つよ折てそ筋へと下のた乃角へと横の

よのぞく切あり板下の九の寸をさうてよの九の西端て
 中めこく切てたのよのこくありぬあり



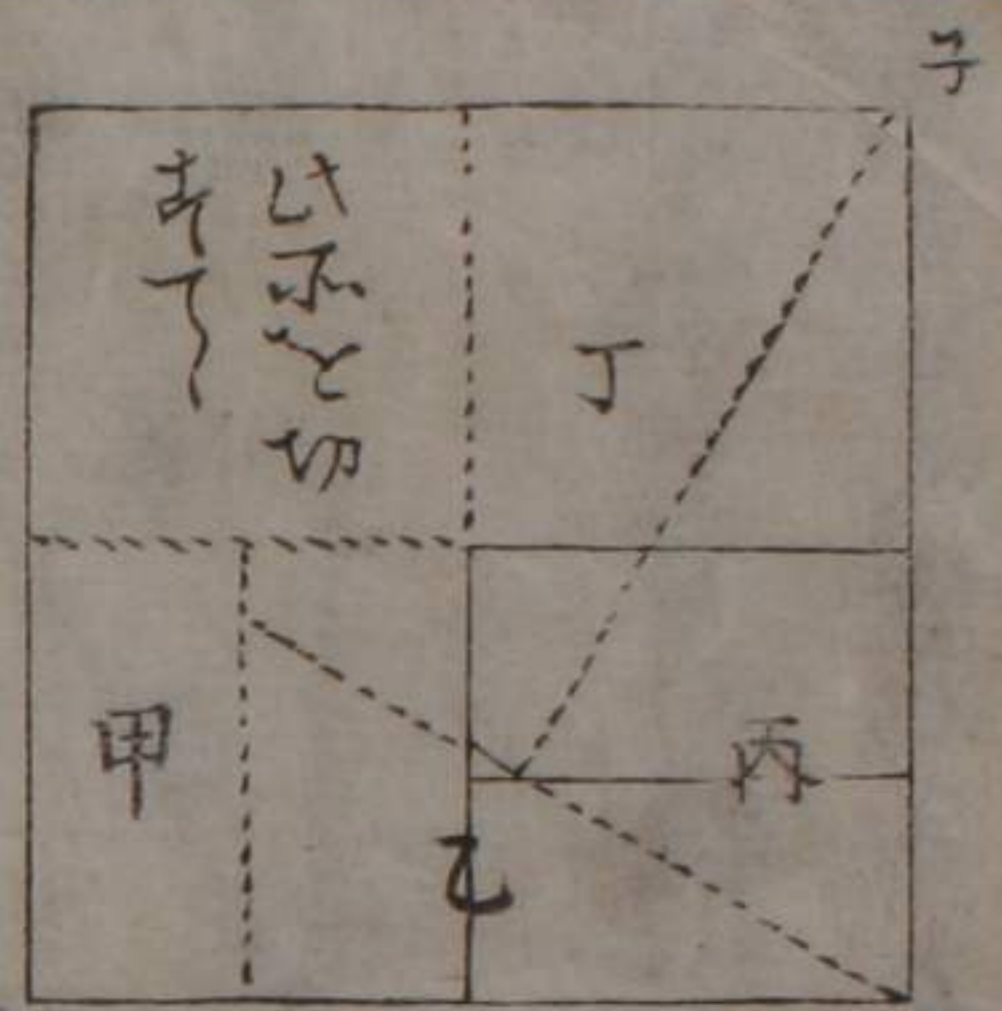
かこのこくありぬあり

たとへば四方の紙とよのぞく十文字よ折てこつを切すそ
 筋と又四方よこくありぬあり

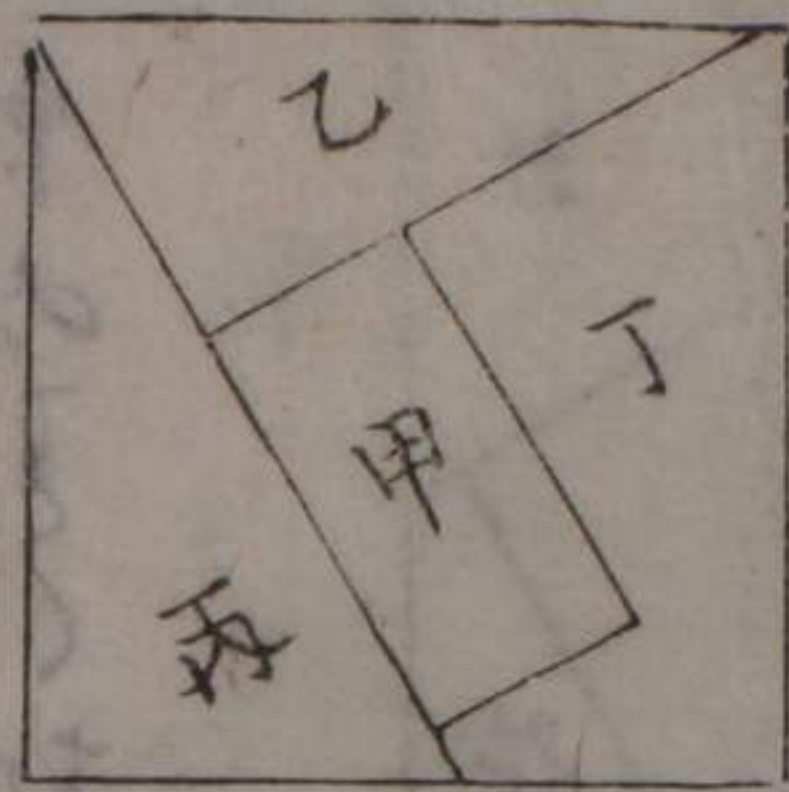
よのき切

よの形離

竹又或

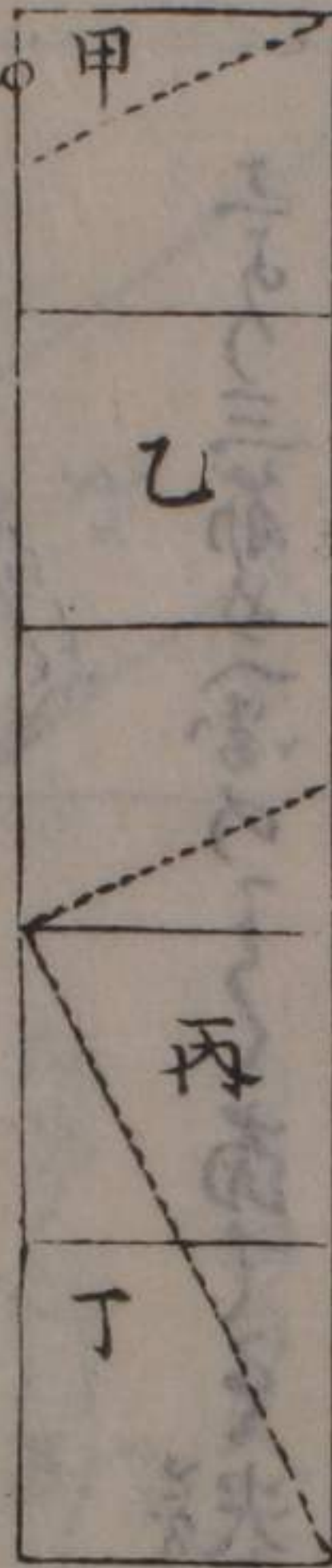


モ法曰^レ正寅の寸と四角よおて^レ角のこく^レ先^レ甲を切てのけ又子^ねせの寸と四角よおて^レ角のこく^レおれ^レ角のこく^レおれ^レ角の筋と付て^レ角の筋と子^ねせの角と三^よ曲尺よ合せて^レ角のこく^レ切てたの寅^寅角のこく^レあり^レなるあり



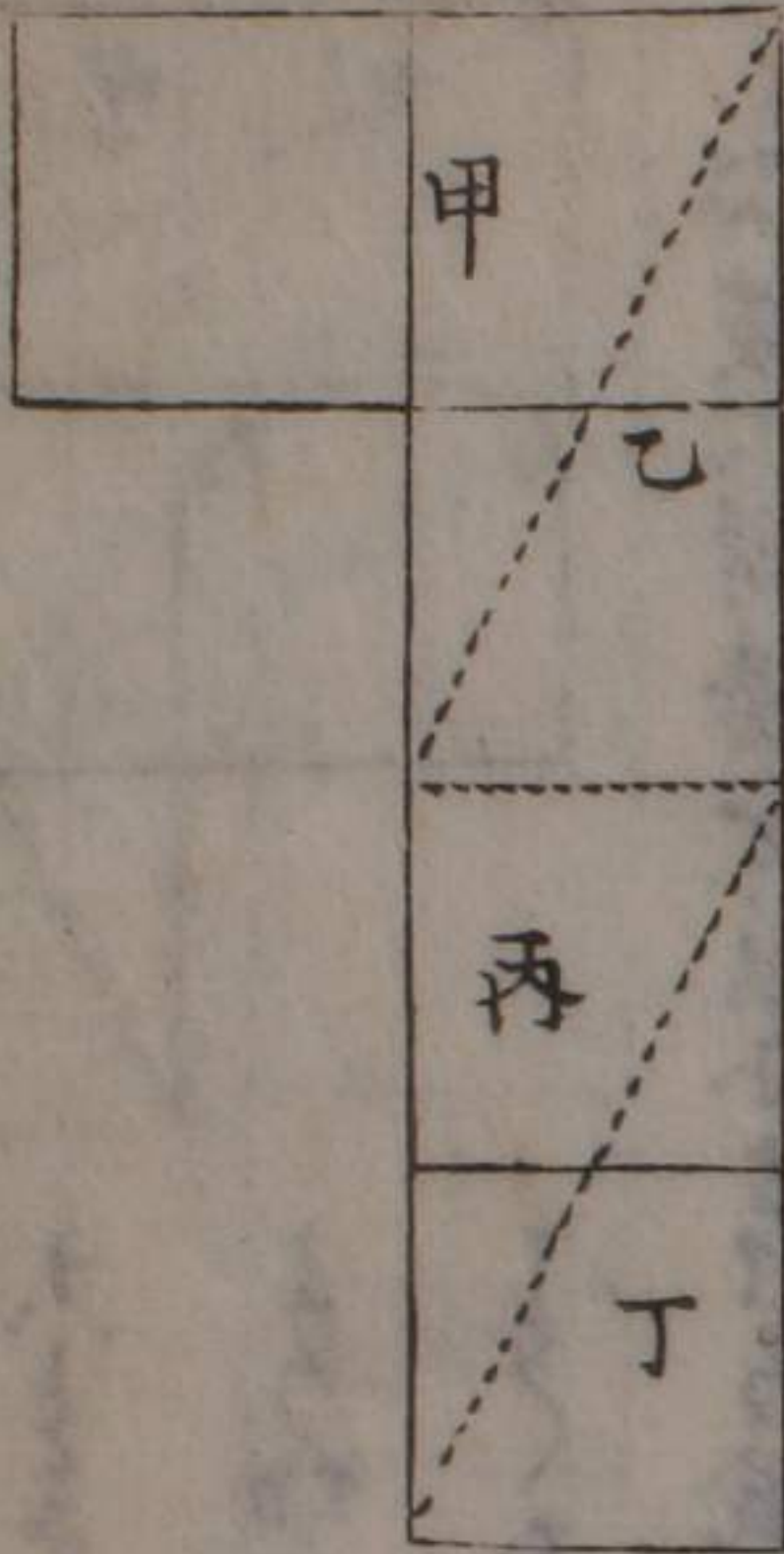
か^レのこく^レあり^レなるあり

た^レは横又増倍を縦よある^レ角と四角よある^レ等^レ切や^レのこく

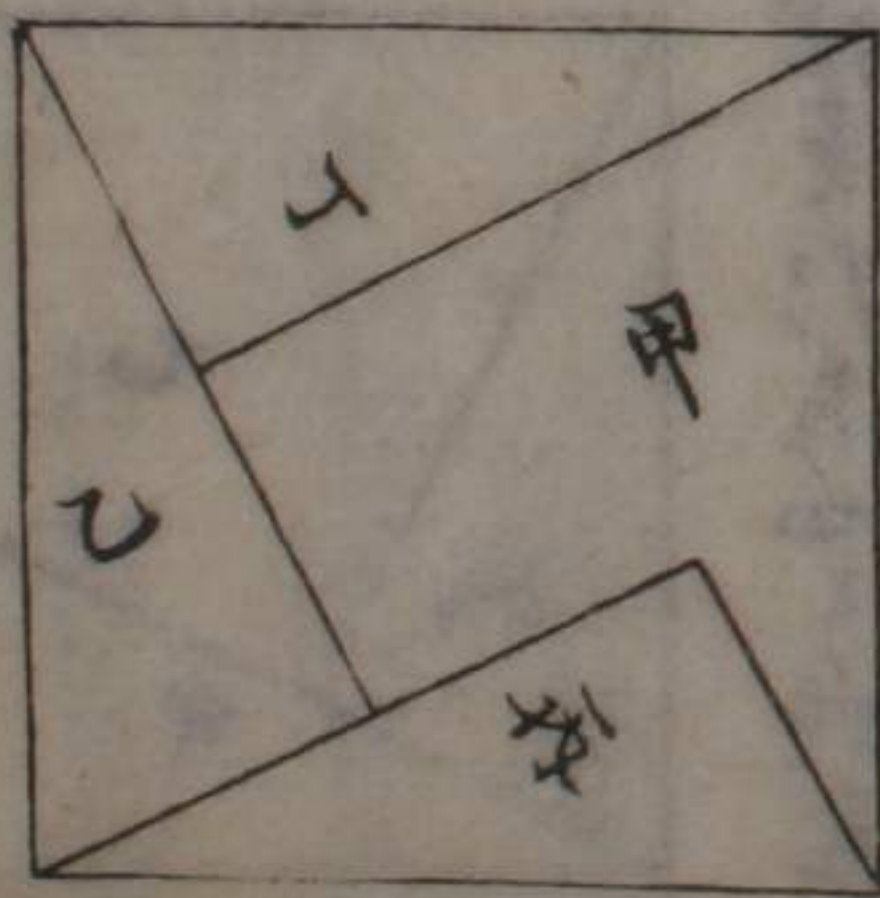


と^レ下^レ縦の寸^レあり

た^レは^レ中^レの筋^レより切て^レ下^レの^レ角^レの^レこく^レあり^レなる

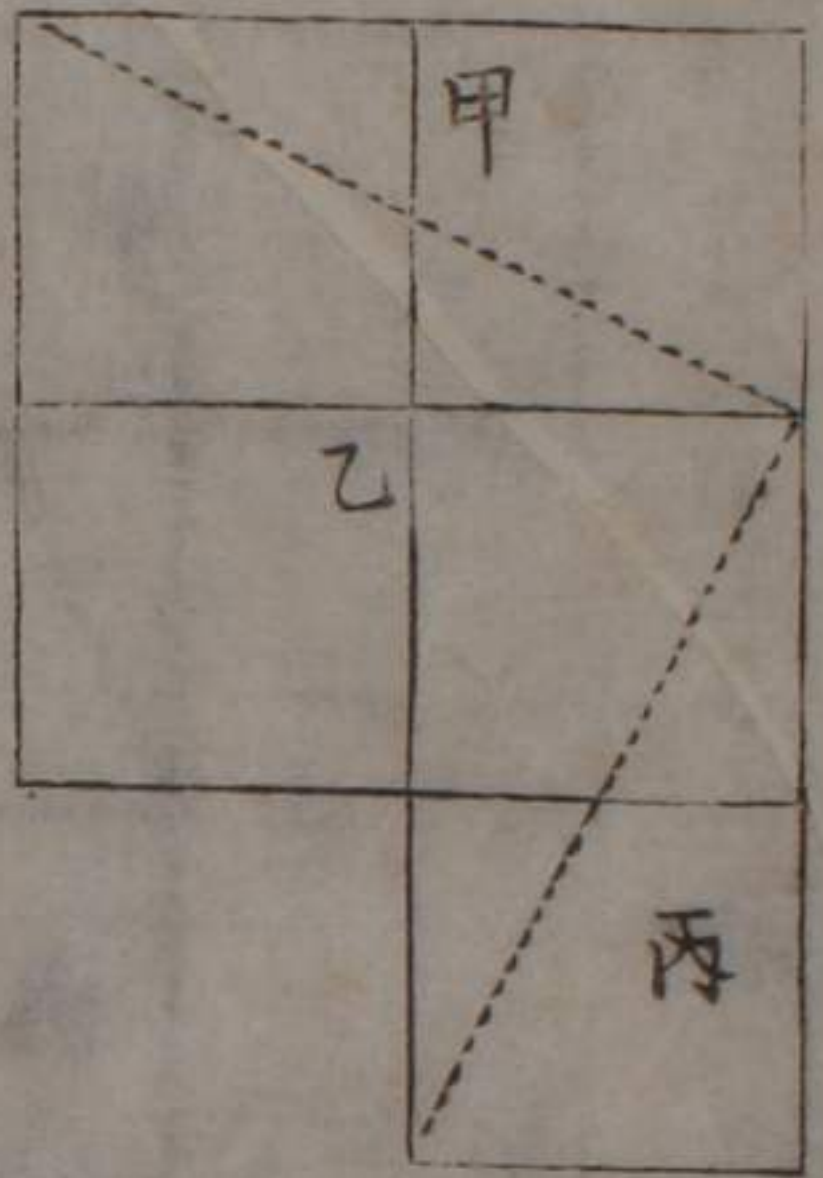


又^レた^レの^レ寸^レより^レめ^レいの^レ縦^レの^レ寸^レ筋^レより切て^レ下^レの^レ角^レの^レこく^レあり^レなる

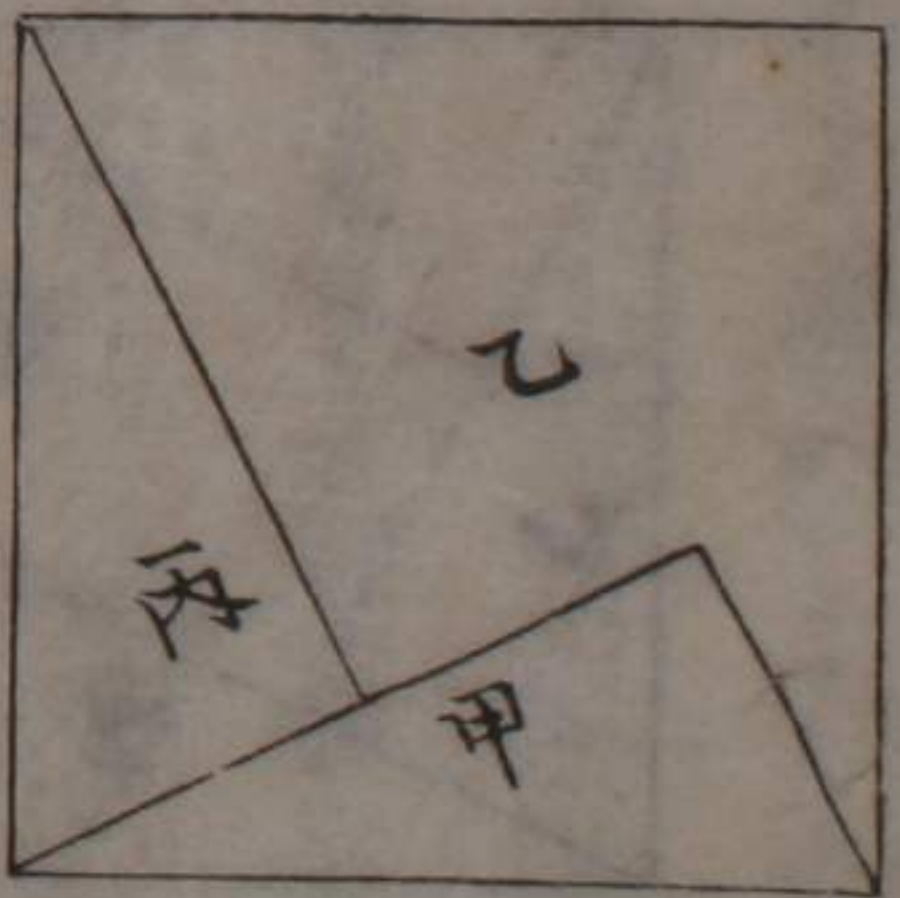


竹又或

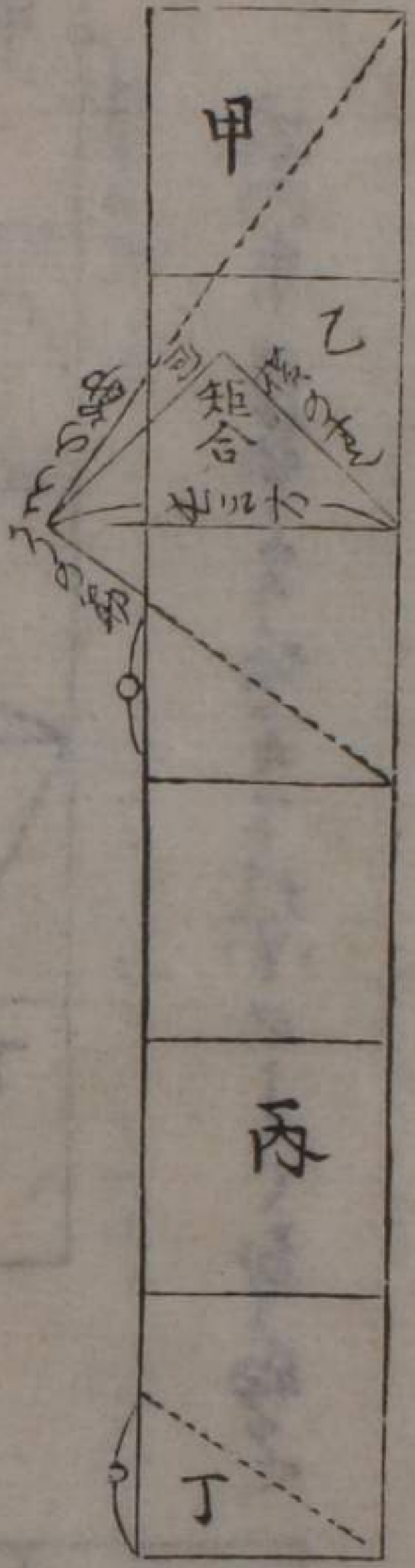
竹又或



又たの寸にてかくの
 大とき紙の下の筋
 より切て下の筋の
 ところありぬあり

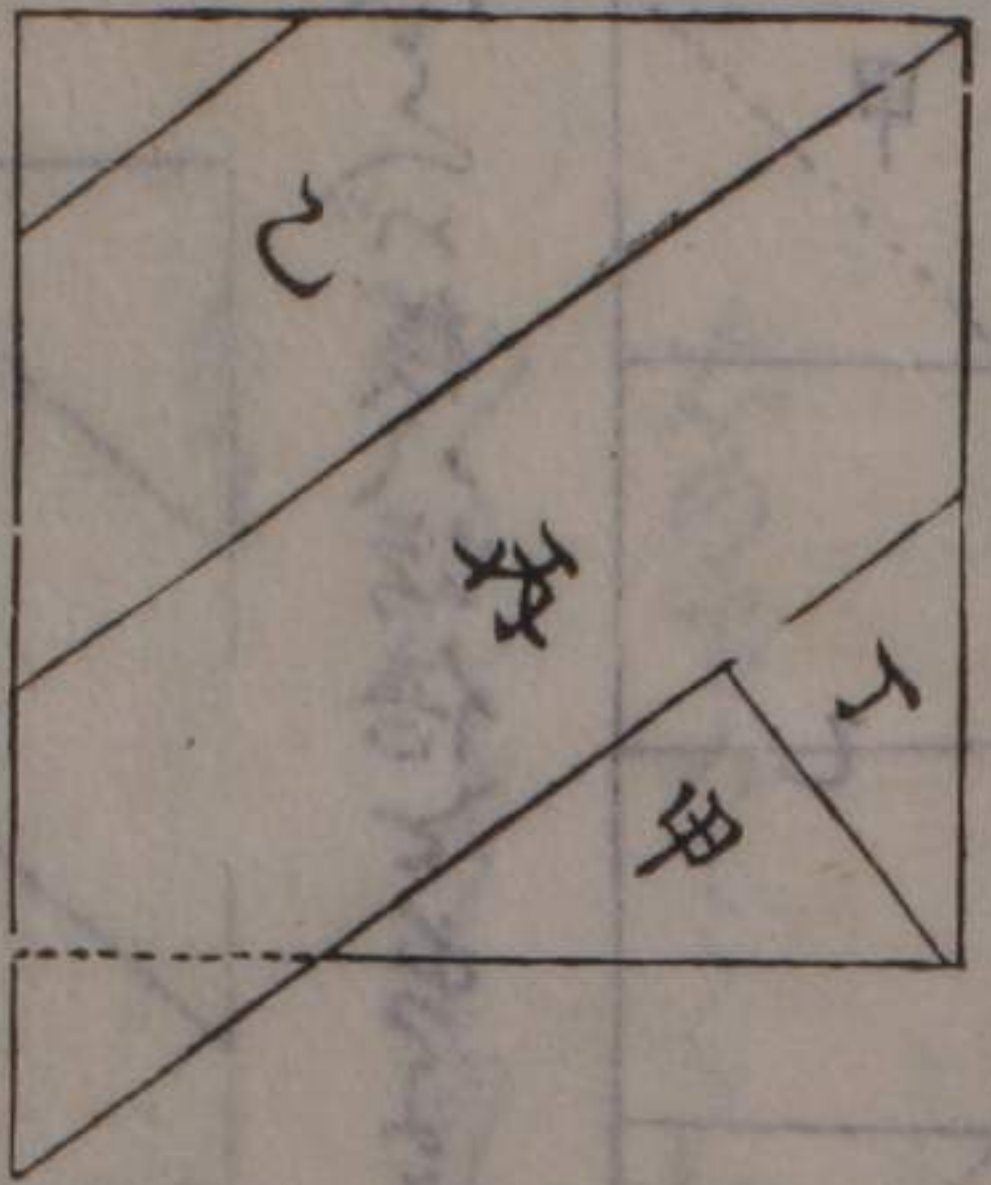


たとへば横六増倍と長ふきる紙と四方形はなな紙きたりやうれ事

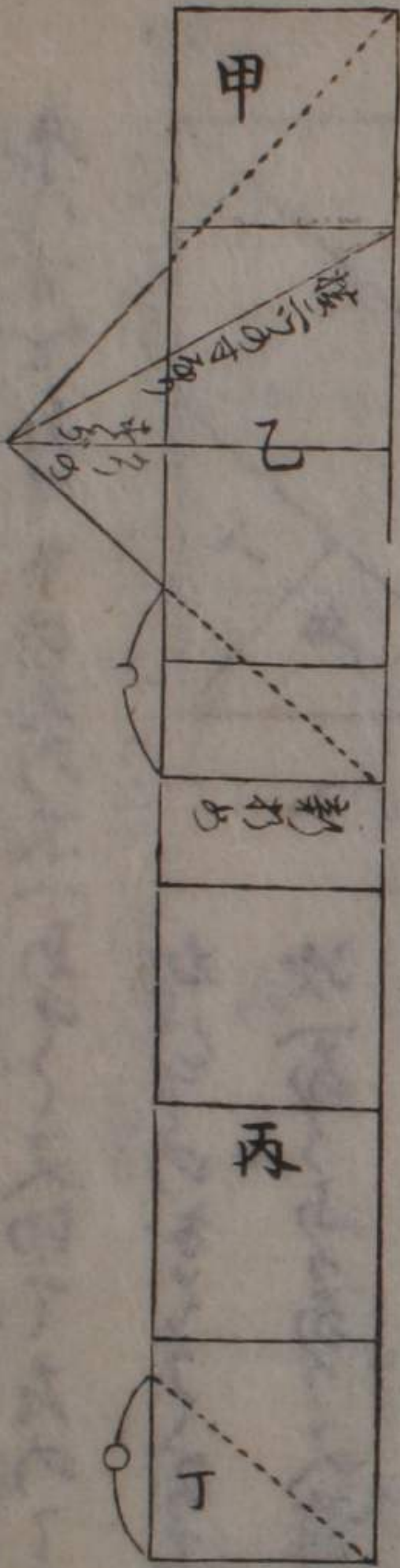


法曰は横の寸四方形
 紙とよろこがしは
 おてそをきさ方を

よより三筋め一筋のこく高てそ尖う斜より下のこく切て板
 上の丸の寸をきりて下の丸のこく高て又切てたのこくありて



板下のおよりうらふを切てこの次あり
 ありあり又よより三筋めの筋とたの方へ
 ながく川ありと最初筋のたの角と
 四筋めのたの角と三筋目の川ありの筋と
 三不矩は合ふやうよ切と一

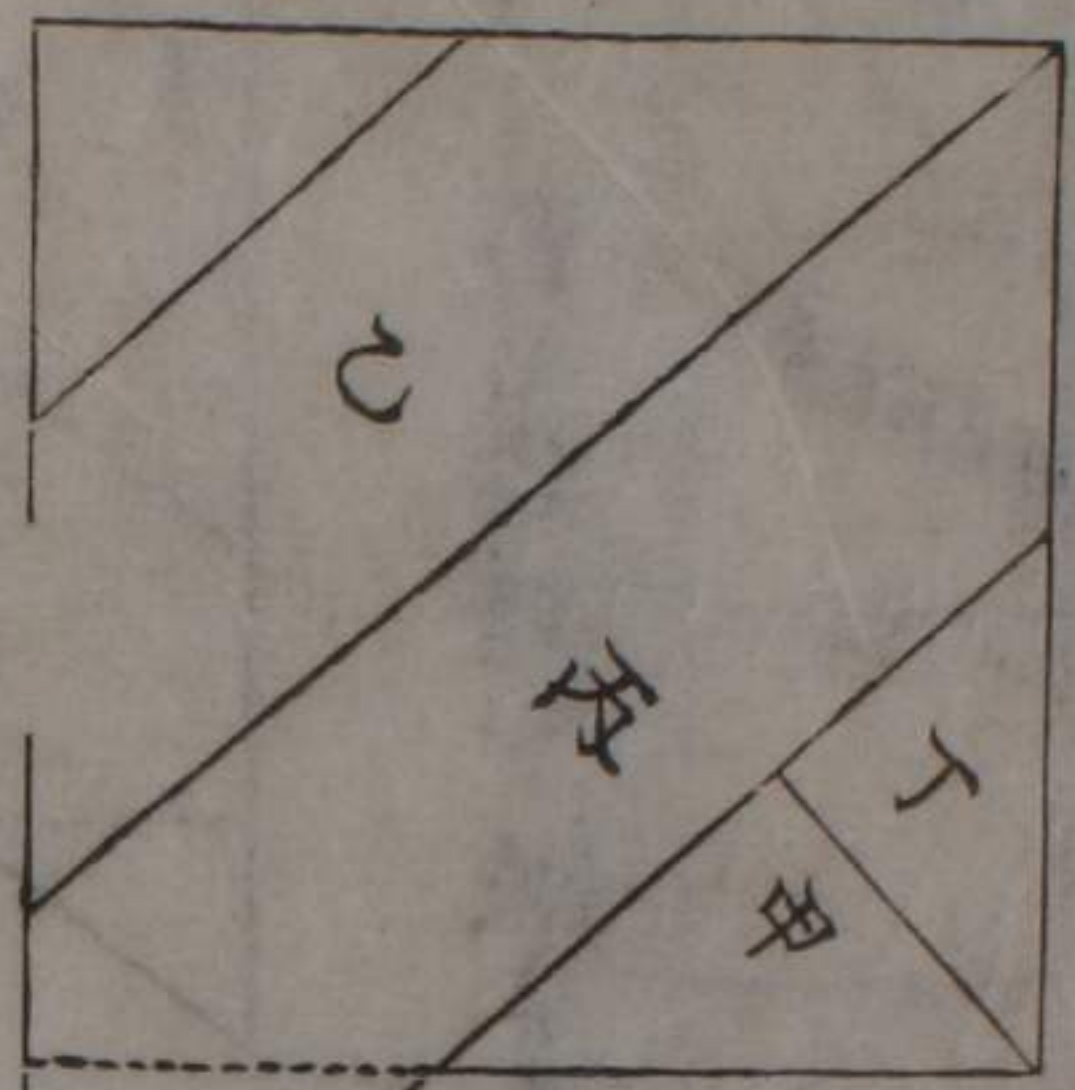


法曰は長き紙
 ニツよわうて
 おめのまらうと

たとへば横七増倍と縦よきる身と四方形はなな紙きたりやうれ事

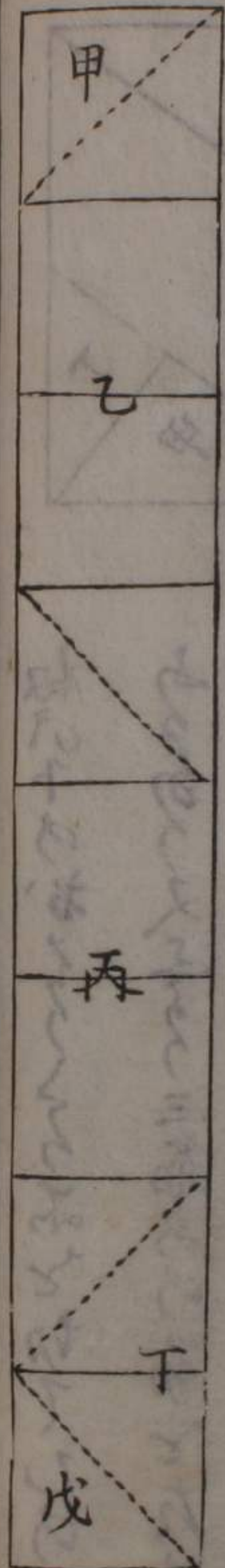
付板よより三筋め乃たの角よりうられ筋まを横二つぶんの寸を

紙を二つに切るとして、^{とが}尖より斜に下の角を切て板よの
丸の寸を紙で下の丸のふちを切て、又切てたのこを切て、



板下の角を切て、^{とが}尖より斜に下の角を切て、
次は、^{とが}尖より斜に下の角を切て、
筋の下の角と三筋の下の角と三筋
筋と新折めの筋の下の角と三筋
筋と合せて切て、

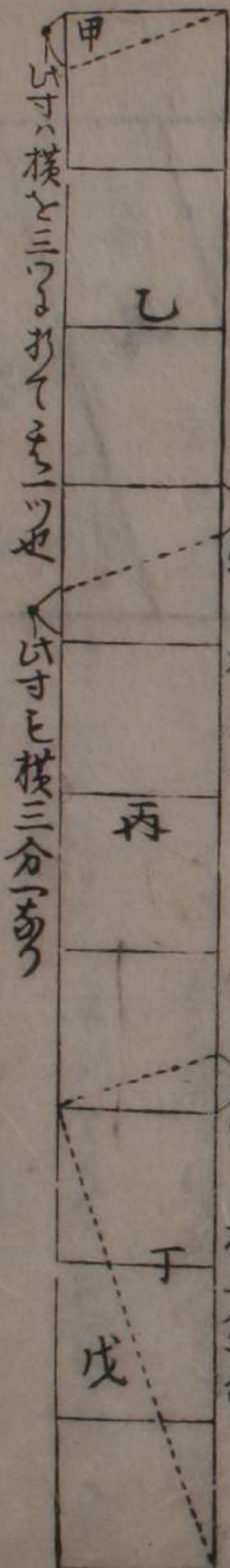
たとへば横八倍倍と紙を四方に紙を切やうの事



たの下のこを切て
かゝのこを切て
あり

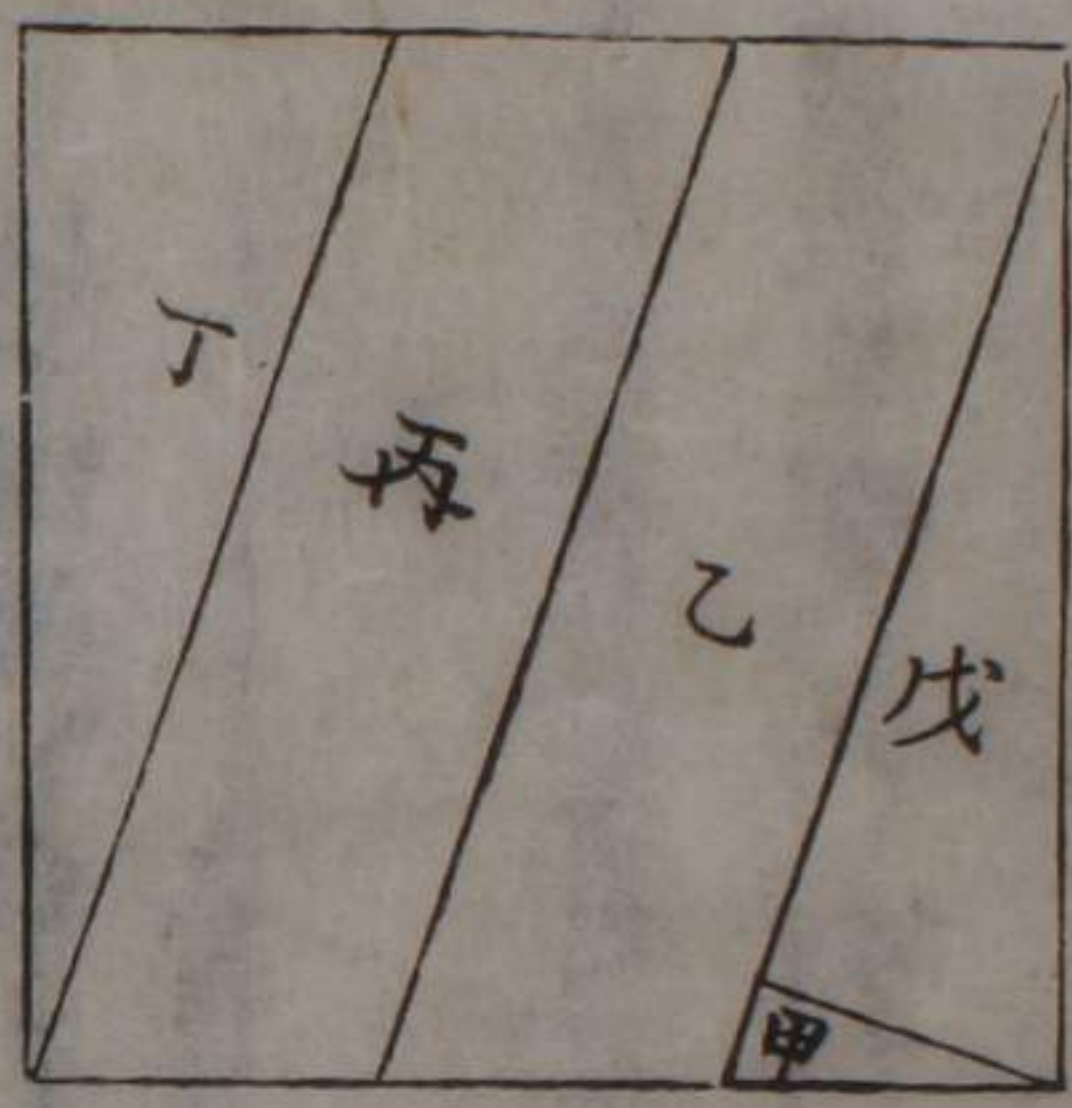


たとへば横十倍倍と紙を四方に紙を切やうの事

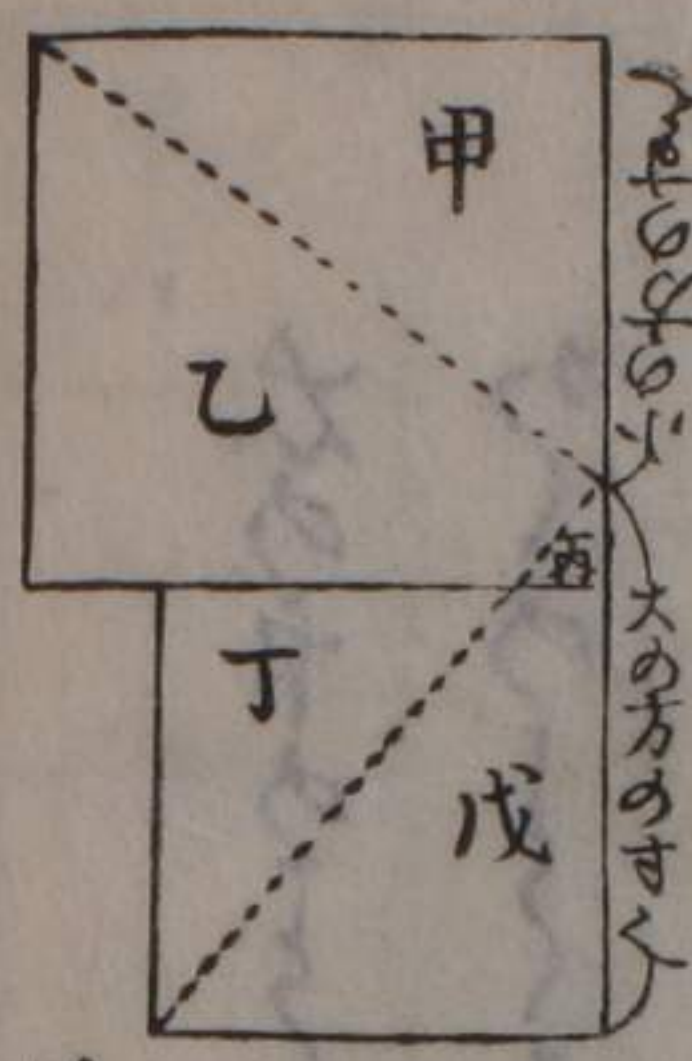


たの下のこを切て、たの下のこを切て、

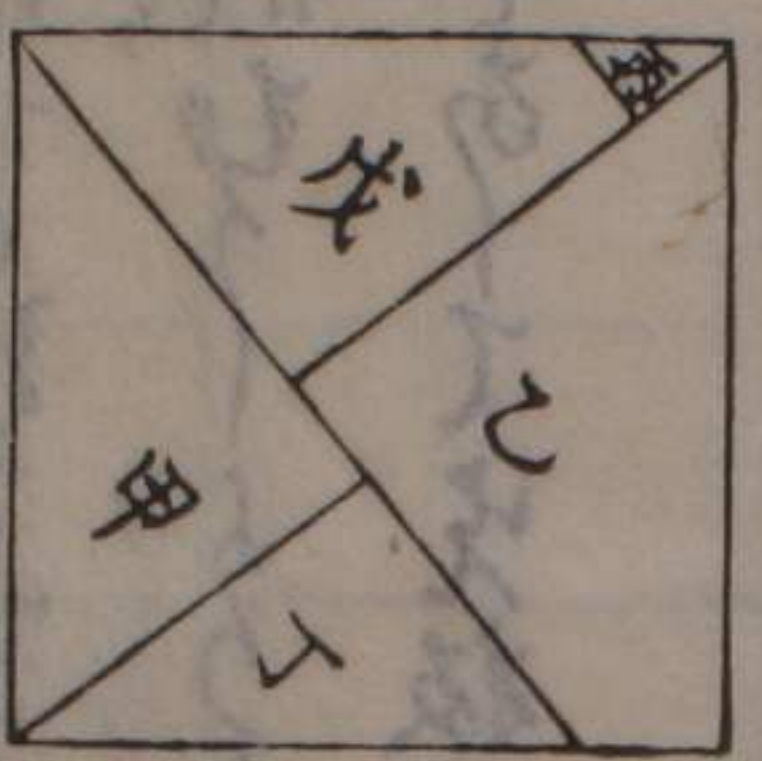
紙の作り



たとひ何寸四方にても心持次第の紙を裁のまゝとく大小二つ
らせて又四方よれあをまたちやうめ事

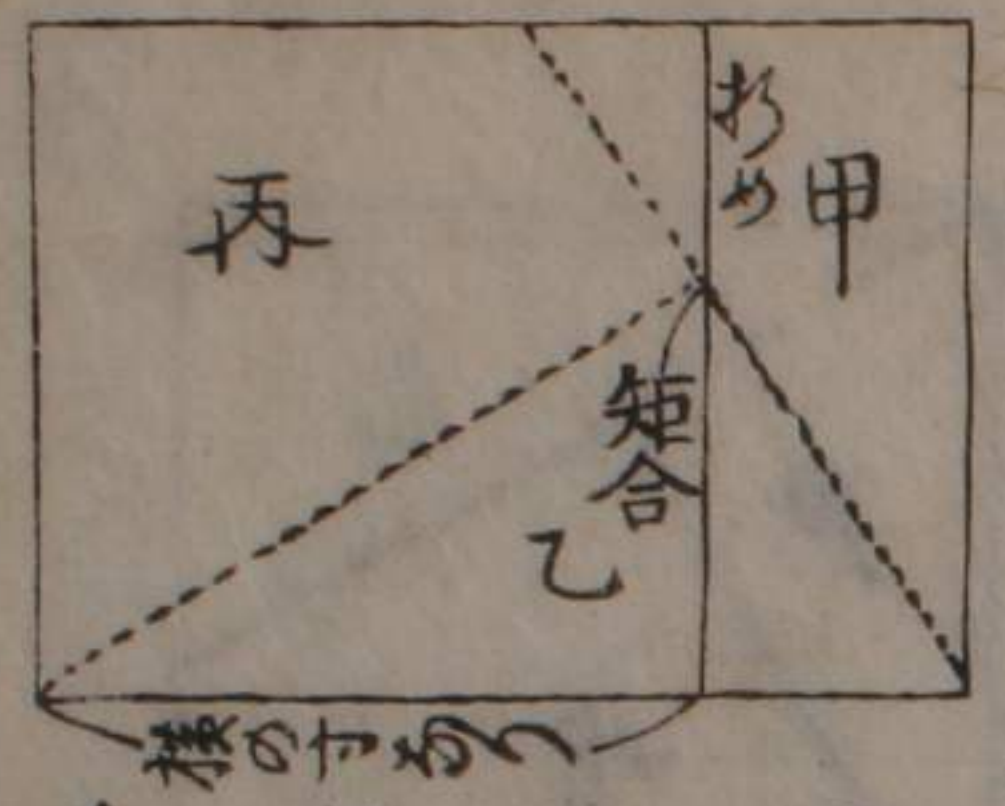


法曰小の方の寸とせしと上の方のたの角
より下の方へ裁のまゝとてさあふるこの方
たの角と下の方のたの角と切てぬあはる



かくのまゝあはるは即勾股併合せて
弦界とぬ形なり

たとへて裁のまゝとて直長短あるとりぬなる紙を四方よ
れあをまたちやうめ事

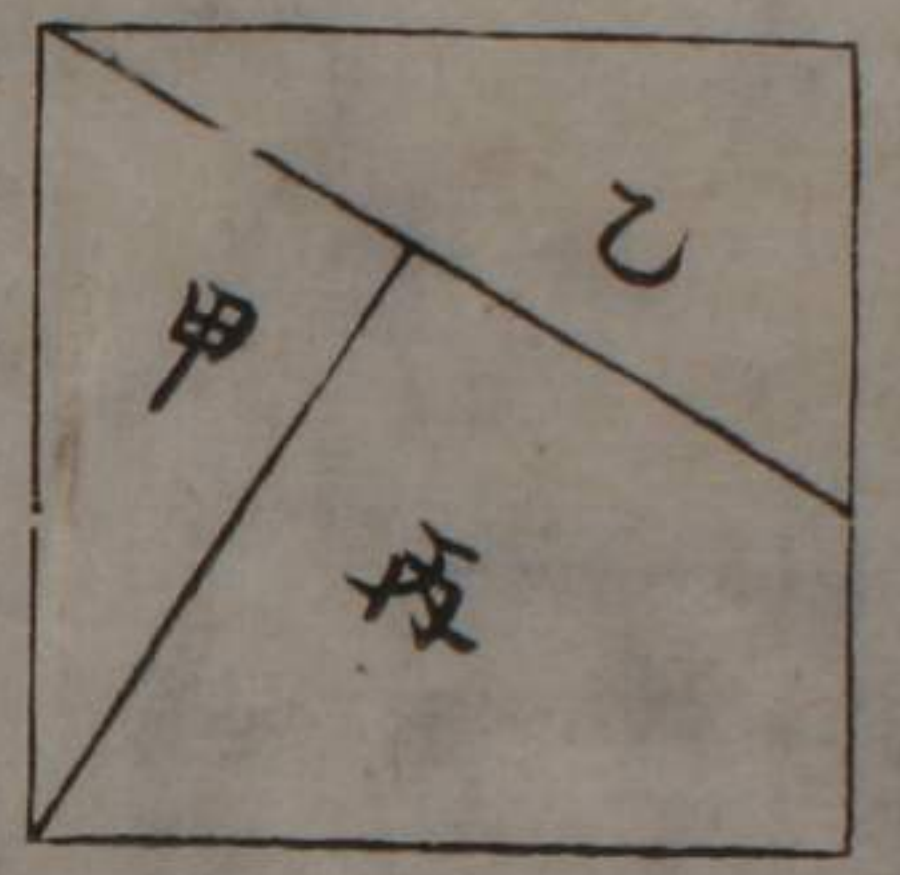


法曰横の寸とせしと下の方のたの角よりたの
方へ裁てさあふるのまゝとてさよれめ紙
付て板を筋へと下のたの角へと三両矩り
合ふは切てたの裁のまゝとてあはるなり

紙の作り

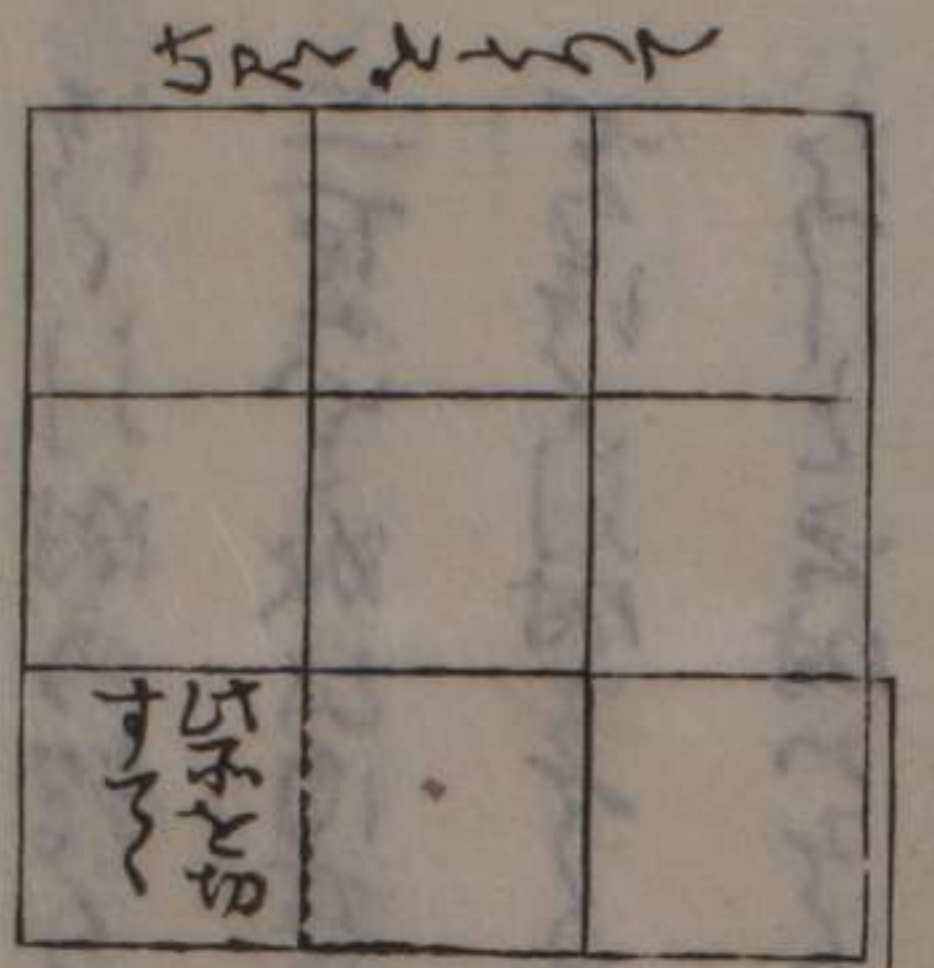
〇二十三

洋紙の紙

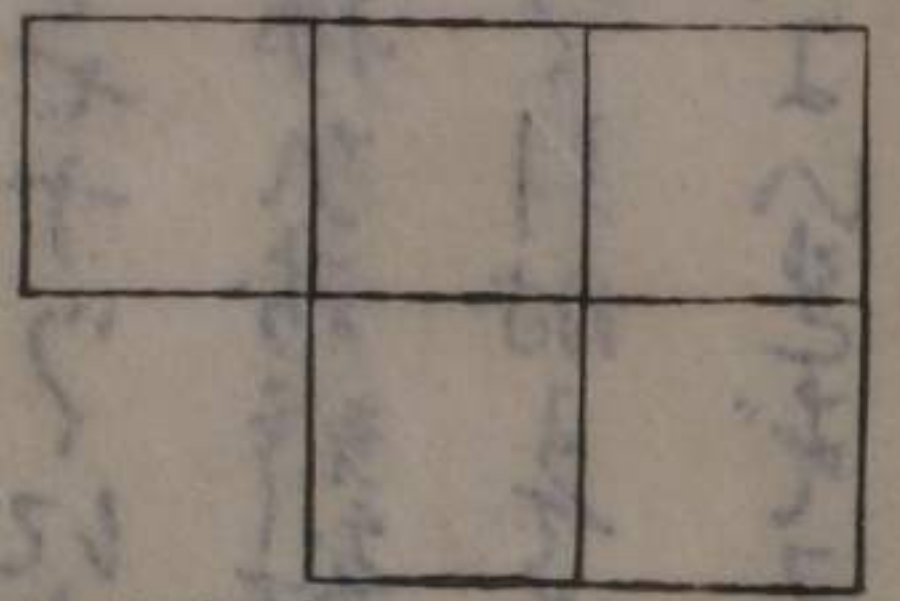


かくのこくなくふありをよそけたら
 やうやく丸このあさりのいふう
 紙もも四方はあすとりあすなり
 紙をべー

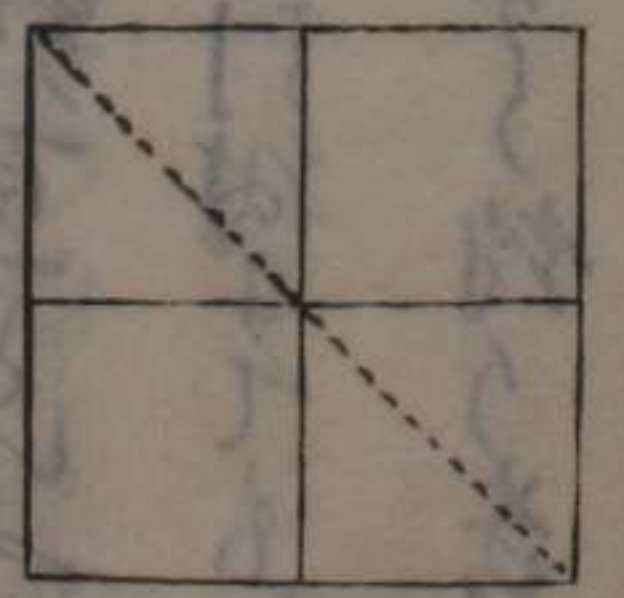
たとへ四方の紙をよのぶとく縦横ともいさうよおてを一角を
 切きて紙を二刀よ切て又四方よあすすたらやうの事
 け形むうよりおほく人のきるあといともを比還仲仙が
 他とあて先板よさううまあゆよ一刀よさるるすたのどじ



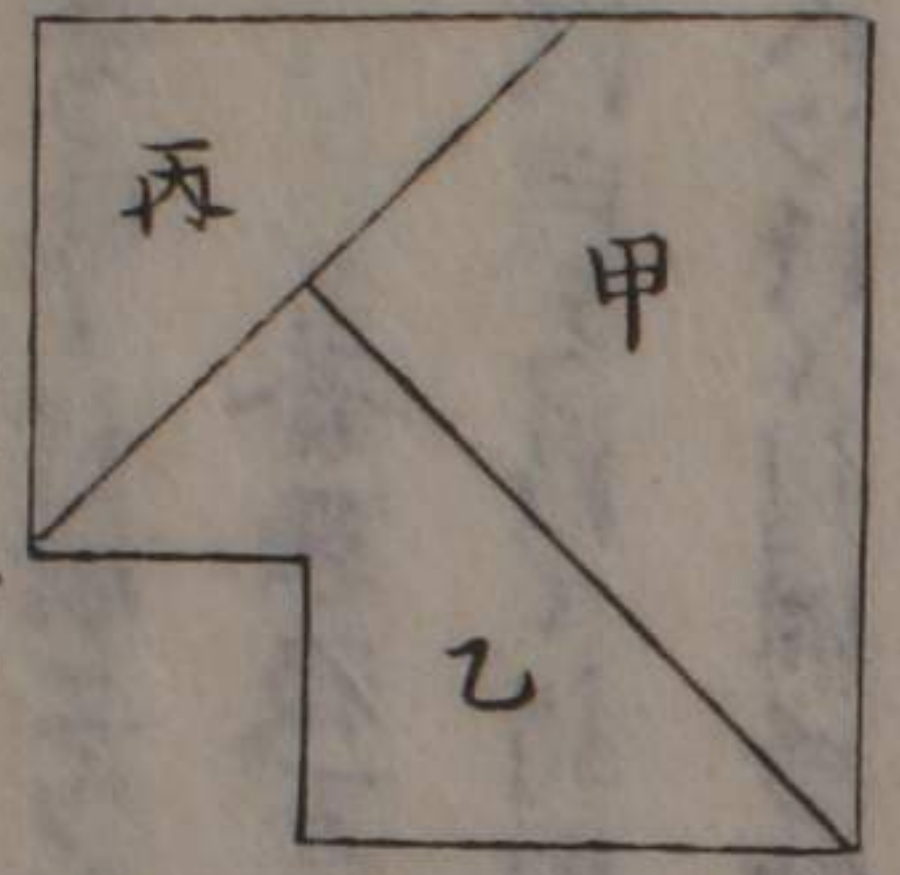
紙の
 打付て
 下の
 紙の



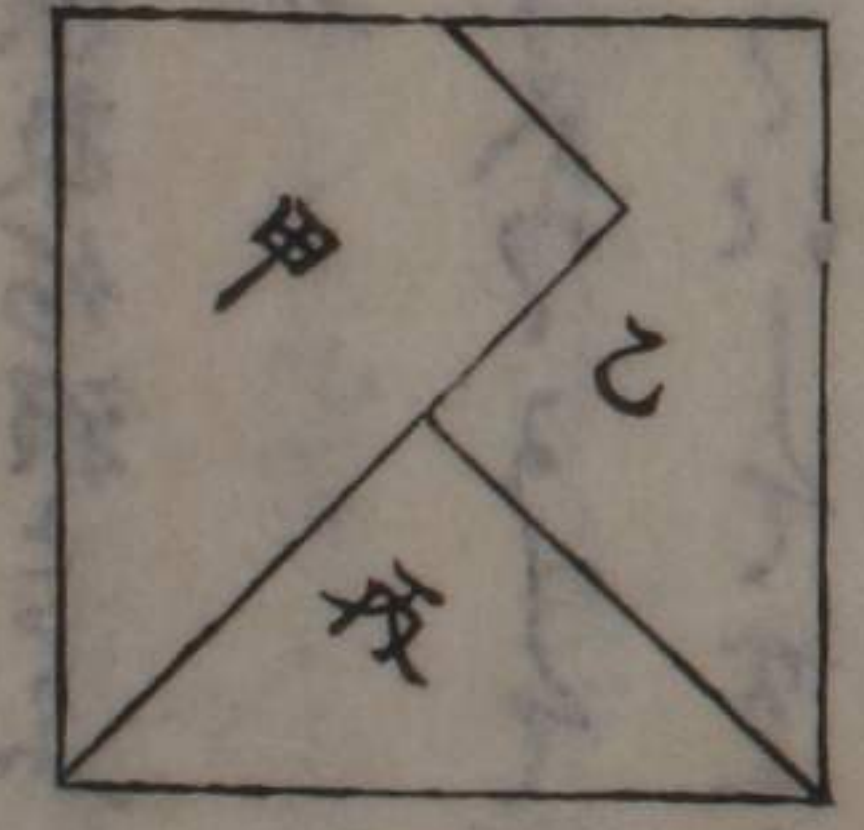
紙の
 打付て
 下の
 紙の



紙の
 打付て
 下の
 紙の



紙の
 打付て
 下の
 紙の



十九 紙を減といふ事

紙を減といふ事は

紙を減といふ事

紙を減といふ事

又つはくつて又の二つはく引て各をちまうと定て惣敷といふゆゆ也
たとはちつはく引時三つあまるといひみつはく引時二つ^{ちま}はく
いひ三つはく引時二つあまるといふ時惣敷何程と云ふ

答惣敷百一者なりといふ

法曰ちつはく引時の^{ちま}はくつと十みつううして四十又と金
又つはく引時の^{ちま}はくつと二十つにうして廿一と金三つ
はく引時の^{ちま}はくつと七十つにうして百四と金三つ合て
二百と金け内百又と拂ひ^{ちま}はくつと百一といふへう又
ちつはく引時^{ちま}も又つはく引時^{ちま}も三つはく引時^{ちま}も^{ちま}はく
なりと云時のそれへ敷よいせぎ又三つあがる^{ちま}はくつと

いふ時百又といふ

二十又三百十五減の事

たとはみつはく引時三つあまるちつはく引時六つあまる九つはく
引時又つあまるといふ時

答惣敷百又十八

法曰みつはくの^{ちま}はくつと百二十六づにうして三百七十八と金
ちつはくの^{ちま}はくつと二百廿六づにうして九百と金九つはくの
^{ちま}はくつと二百八十づにうして千四百と金三つ合て二千二百
七十八と金は二百廿六づにうして法百又十八と云ふ也

廿一又百十三減の事

御加衣上



ひはらひらよいねひろ
ひらひらよいねひろ

御加衣上



やま
こま
まろ
まろ

こま
まろ
まろ

神代卷終

たしといふ也或ハ又四のふ紙あつた時ハ合巻の人たの
よとあづりつらむらうとうす故まうらうちあふ人これと
そくたのまなる一といふ知りの是又甲一

勘老神伽雙紙上巻終

今田文庫

